

連載 ミャンマー情勢(4)

三船 二郎

クーデター 国軍打倒へ民主派前進

アウンサンズーチー国家顧問への獄死攻撃を許すな

アウンサンズーチー国家顧問への獄死攻撃を許すな

民主派の組織的前進

国軍支配下のミャンマーの裁判所は昨年12月30日、アウンサンズーチー国家顧問に対し禁錮7年の有罪判決を言い渡した。これにより刑期は総計33年となった。

国軍は2022年9月2日、重労働付きの懲役3年の実刑判決も言い渡している。独房に移された彼女は食欲がなく流動食しか摂ることができず、髪の毛が抜け、貧血で倒れそうになりながらも不満をいわず毅然としていると伝えられている。

今年も1月ないし2月に第2回人民総会が開催され、第1回人民総会からの1年間の総論をまとめる。1945年生まれ、彼女は今年誕生日がきたら78歳となる。このような国軍の行為は彼女を獄死させるものといっても過言ではない。

代表部を設置 国民統一政府(NU)は、これまで米、英、ミャンマー民衆とGは、これまで米、英、オーストラリアなどに代表部を設置しており、昨年2月には日本にも設置した。

国軍との闘いの中で成長する民主派

①激戦地ザガイン管区とマグウェー管区 民主化革命の内実がもっとも進んでいるの

がザガイン管区とマグウェー管区である。この勝敗がミャンマー全体の勝敗を決する。ザガイン管区はミャンマーの北西部に位置する。

②追い詰められる国軍 両管区での民主化革命の内実の深まりに對して、国軍が創設した民間反革命武装組織のピュンソーティを駆使している。

③国内避難民の実態 ザガイン管区の避難民が61万2400人と圧力的に多い。次に多模攻撃がおこなわれている。

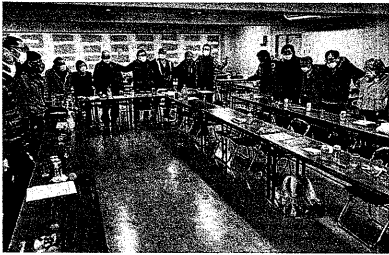
④これは何を意味するか ほとんどの村が「数百人規模の市民防衛隊」が参加したと

最大の決戦期到来 現段階の最大の特徴は、今年8月までに国軍が強行しようとしている「偽の総選挙」をめぐって民主派と国軍との闘いが熾烈さをさらけだしていることである。

12月25日、大阪市内から根っからの「大衆運動主義者」で、80年代の革共同には疑問を



不屈の民主化闘争の象徴 アウンサンズーチーさん



田中さん 松崎さん 村田さん を偲ぶ会

70年代のディープな話に沸く

12月25日 大阪

赤松さんは故・吉岡史郎さんとの関係で、田中さんとは80年代以降に数回会った。田中

3人の話のあとに古河潤一さんの音頭で献杯。その後はともに闘ってきた時代を語った。3人の先輩・同僚である橋本利昭さん

山本さんは、松崎さんとは60年代中期の関西学生運動の同世代で、松崎さんは高校生

(写真上)

12・20 大阪地裁反動決定弾劾

12・22 GX基本方針を許さない

明 仰木

大阪地裁の反動決定弾劾

昨年12月20日、大阪地裁(井上直哉裁判長)は、申し立てられていた美浜原発3号機運転差止仮処分申し立てを却下した。

この決定は、8月24日に岸田が打ち出した40年期限の撤廃や新型炉の開発の推進などを受け、これに迎合し、司法の独立を投げ捨てた決定である。

そもそも今回の決定過程が極めて異常であった。井上裁判長は、10月にも決定を出すといながらなかなか決定日を示さず、やっと提示したのは、12月に入って中旬過ぎ。それも、12月14日から12月20日の間に決定を出す



決定を弾劾し即時抗告を宣言(12月20日)

判断に不合理な点がないことを主張疎明しなければならぬとしないから、各論部分では、不合理の立証責任を申し立て人に課すという、総論と各論で食い違っ

12・22 GX

12月22日グリーン・トランスフォーメーション(GX)実行会議が、基本方針をとりまとめ、閣議決定の上で、閣連法を1月23日開会される通常国会に上程するという。

昨年8月24日、岸田によるそれまでの方針の大転換を受けて、わずか4カ月でまとめた論議もないまま、政府は原発推進に突っ走るうとしていた。絶対に許してはならない。

今回打ち出した基本方針では、原発を最大限活用するとし、二つの政策転換を打ち出した。一つは、原発の新規建設を打ち出した。これまで、新規建設については、現時点では想定していないとしてきたのを、今回将来にわたって原子力を活用するために、新規建設に取組みを明記したのである。その上で、大あたっては、廃炉を決めた原発の新型炉への立て替えリプレイスを具体化するとしている。

二つは、原発運転期間の延長である。3・11フクシマを受けて、12年原子炉等規制法で、原発の運転は原則40年とし、例外的に1回だけ20年延長できるとしてきた。この40

年(例外的に20年延長)というものが原子力規制の根幹をなしてきたのである。それを覆し、40年(60年)を超えて運転できるようにしようとしている。その方法として、規制委員会の審査や司法判断などで止まっていた期間を40年から除外するというの論議もないまま、政府は原発推進に突っ走るうとしていた。絶対に許してはならない。

2012年5月、泊原発3号機が定期検査のため停止し、日本の全ての原発が停止した。「3・11」以降、再稼働が簡単にはいかなかった。順次、定期検査で停止していくという事態のなかで、最後の1基である泊3号機が止まったのである。以来、今日までに再稼働できたのは、川内原発1、2号機、玄海3、4号機、伊方3号機、高浜3、4号機、そして美浜3号機だけである。他の原発は再稼働できていない。この今日までに再稼働できていない原発は、少なからずある。

高浜町、福井県の同意を得ており、昨年6月に再稼働を狙ったが、特重施設が未完成のため再稼働を断念した。今年、特重施設完成をもって、再稼働しようとしている。絶対に許してはならない。

高浜1、2号機はそれぞれ48年、47年を越える超老朽原発である。世界的に見ても現状で一番長く運転している原発が53年超である。それに並ぶような高浜1、2号機を動かすというのだ。

48年を超える超老朽原発高浜原発1号機、47年を超える高浜2号機を再稼働を許してはならない。老朽原発うごかすな! 実行委員会、高浜原発1、2号機の再稼働をとめるために今春、関電本店高浜原発を結び、高浜原発を呼びかけている。3月21日関電本店を出発し、4月2日高浜原発に到着する計画である。このリレーデモを成功させ、高浜原発1、2号再稼働反対の行動を大きく作り出していこう。

23年が正念場

2023年は反原発闘争の正念場だ。岸田の原爆推進へ向かっての暴走を止めよう。ただちに、原爆推進の岸田を倒せ! の大きな行動、運動を展開しなげばならない。さらけに、今国会に上程される超え運転を可能にする法案を絶対対峙してはならない。

岸田の大軍拡、生活破壊、大増税などの悪政に対して、原発をめぐる攻防を軸に大反撃を開始しよう。今こそ岸田打倒を高く掲げて総決起しよう。



米軍基地前で抗議行動(12月11日、京都府京丹後市)

12月11日、「米軍基地利用規制法」の問題点について警鐘をならし、2022年が京都府京丹後市の丹後文化会館で開催され、地元京丹後市をはじめ関西一円から280人が集まった。会場からリモート中継もあり60カ所で見聴された。主催は、米軍基地反対丹後連絡会、米軍基地建設を憂う宇川有志の会。

関西圏で唯一の米軍基地「米軍Xバンドリーダー基地(正式名:米軍経ヶ岬通信所)」がある京丹後市では、毎年この時期に基地撤去を求める集会が開かれてきた。コロナ感染症でこの2年はひらかれず、今回3年ぶりの開催となった。

午後2時から集会が始まり、記念講演を馬奈木敏太郎弁護士がおこなった。

馬奈木さんは、9月に施行された「住民監視と人権制限の土地利用」でも、関係者と判断されれば、どこに住んでいようと監視・情報収集の対象となり、権力の恣意的判断で事実上誰もが対象とされる悪法である。沖繩県の場合、沖繩島を含め有人の島はすべてが指定区域となるので、全県が含まれるという。最初から沖繩を指定するような露骨なやり方はしないかもしれない。

米軍基地いらんちゃフェスタ 2022 (上)

米軍Xバンドリーダー基地を撤去せよ

米軍基地建設を憂う宇川有志の会・永井友昭さんが現地報告。最近の問題点を整理して報告した。

(1)米軍属人身事故を隠蔽

11月8日、国道178号三津バイパスで米軍属が通勤運転するワゴンが、道路脇を歩いていた地元の老人に接触。ワゴン車の左前サイドミラーが破損(ガラスが割れて散乱)、老人は左まぶたを創傷。車のブレーキ痕なし。完全なドライバールの前方不注意。大事故にならなかったのが不思議なくらいの事象。警察は、連絡を受け、事故現場に来て調査をし、家族に連絡。警察の連絡で、老人はその場から救急車で運ばれ病院で検査。

が、狙いが沖繩にあることは明白だ。【注】政府は12月16日、土地利用規制法に基づく「土地利用状況」を聞き、北海道、青森、東京、島根、長崎の5都道府県の離島や自衛隊施設などを監視・情報収集して、58カ所の区域指定を命じた。周知期間を経承して、23年2月に指定を施行するとしている。

人身事故を物損に偽装

